

平成 2 2 年 度 事 業 報 告 書

1 組織強化活動

(1) 全戸会員制の推進

社会福祉事業の組織的活動の促進と地域福祉の増進を図るため、社協の全戸会員制を推進し、各自治会の協力のもとに8,084戸で99%の加入実績となった。

(2) 高額寄付者に対する感謝状の贈呈

社会福祉事業に10万円以上の金品を寄付された26件の寄付者に対し、感謝状を贈呈した。

(3) 研修会等への参加

- 上川支庁管内社協職員研修会 (22年6月2日 旭川市3名)
- 道北地区市社協職員自主研修会 (22年6月11日～12日 名寄市7名)
- 全道社協会長事務局長研究協議会 (22年6月16日～17日 札幌市2名)
- 上川地区社協会長事務局長会議 (22年6月21日 旭川市2名)
- 生活福祉資金貸付事業研修会 (22年8月9日～10日 旭川市1名)
- 経理・事務担当者研修会 (22年8月28日～30日 札幌市1名)
- 地域生活定着支援事業実践研修会 (22年9月3日 札幌市1名)
- 地域に理解され支持される社協研修会 (22年9月13日 旭川市1名)
- 地域に理解され支持される社協研修会 (22年11月2日 旭川市1名)
- 市社協事務局長連絡協議会 (22年11月9日 札幌市1名)
- 上川支庁管内社協職員研修会 (22年11月25日～26日 秩父別町4名)
- 災害ボランティアセンターコーディネーター養成研修会 (22年12月7日～9日 札幌市1名)
- 法人役員専門研修 (23年1月26日～27日 札幌市2名)
- 上川地区社協会長事務局長会議 (23年1月31日 旭川市2名)

2 広報活動

(1) 社協だよりの発行

全戸配布する「社協だより」を、6回(第150～第155号)発行し、各種福祉サービス、ボランティア活動及び住民の福祉活動など幅広い情報の提供に努めた。

(2) 情報提供

各種ボランティアスクール開催案内等、ホームページによる福祉サービスの情報提供、また市内報道機関・行政の協力による広報活動を行った。

3 ボランティア活動

(1) 研修会への参加

日 程 10月30日(土)～31日(日)
会 場 札幌市
内 容 ボランティア愛ランド北海道2010 in さっぽろ
参加者 21名

(2) 第20回士別市小学生ボランティアスクール

日 程 10月23日(土) 10:00～12:00
会 場 士別市民文化センター 研修室
講 師 ボランティアセンター運営委員
内 容 「ぼくらにできるボランティア」
収集ボランティア活動体験学習
・使用済み切手・カード、プルタブ、ペットボトルキャップの収集の目的と集まったものがどのように使われるか、また赤い羽根共同募金の目的について学んだ。
参加者 16名

(3) 平成22年度しべつヤングボランティアスクール

日 程 11月 6日(土) 14:00～16:00
会 場 士別市つくも青少年の家
講 師 COM泉屋社長 泉谷昌洋さん
内 容 利用者の暮らし・希望を第一に考えた福祉用具を製作し、業務以外でも様々なボランティア活動に取り組んでいる泉谷さんの実践をお聞きする中で、「思いやり、相手の立場に立った行動」など、ボランティア活動を実践する上で大切な姿勢について研修した。
参加者 46名

(4) 第16回士別市中学生・高校生ワークキャンプ

日 程 11月 6日(土) 14:00～ 7日(日) 11:30
会 場 士別市つくも青少年の家
講 師 COM泉屋社長 泉谷昌洋さん
ボランティアセンター運営委員
内 容 障がいをもって生活している方々や、ボランティア活動に取り組んでいる方々とのふれあいの中から、生きることの尊さや支えあう心の大切さを学び、ボランティア活動に取り組むきっかけの場となることを目的とし、今回は、「どんな人にもやさしいまち」をテーマに、士別の玄関である駅前やショッピングセンター等、どんな人にもやさしい理想のまちづくりについて研修した。
参加者 30名

(5) 平成22年度士別市福祉教育懇談会

日 程 11月12日(金) 14:20~16:30
会 場 士別市立多寄小学校
講 師 国際協力NGO JPCOM代表 桑原英文 氏
内 容 市内各学校の教職員及び教育・福祉関係者に呼びかけ、互いの実践と情報を交換し交流する中で、福祉教育の啓発と促進を図ることを目的として開催した。
・研修Ⅰ 公開授業 士別市立多寄小学校3~6年生15名
「みんなの笑顔が広がる地域と暮らしを創る大人達のお話」
・研修Ⅱ 講演
「実りある福祉学習とするためには」
参加者 教職員、福祉関係者 19名

(6) 第32回住民福祉活動を進めるつどい

日 程 11月13日(土) 13:30~15:00
会 場 士別市勤労者センター 多目的ホール
講 師 国際協力NGO JPCOM代表 桑原英文 氏
内 容 国内外での災害被災者支援や、福祉教育などの領域で活躍されている桑原さんから、子どもを取り巻く地域社会のあり方について学んだ。
・講演 「子ども達の笑顔が広がる地域社会」
参加者 55名

(7) 平成22年度士別市災害ボランティア活動研修会

日 程 11月14日(日) 9:30~15:00
会 場 士別市つくも青少年の家
講 師 国際協力NGO JPCOM代表 桑原英文 氏
内 容 災害時の被災者の様々な支援ニーズへの迅速な対応には、被災者支援を行うボランティアの力が大いに期待されることから、士別市内、あるいは近郊での災害を想定し、災害ボランティア活動のあり方について研修した。
・講演 「もしも災害が起きたら」
・演習 「災害時のボランティア活動とは？」
「自分たちでできること」「災害にも強い地域づくり」
参加者 61名
本事業は、北海道及び北海道社会福祉協議会補助事業として、また、上川北部ボラネットスキルアップ事業と同時開催とした。

(8) 平成22年度 士別市民ボランティアスクール

日 程 3月12日(土) 13:00~14:30

会 場 士別市民文化センター研修室

講 師 北海道社会福祉事業団参与 小林繁市 氏

内 容 地域や施設で障がい者支援に長く携わってこられた、小林先生の豊富な実践の中からは、子どもの健全な育ちのための家庭や地域の役割についてお話しいただき、「子どもの育ち・親の育ち」について研修した。

・講演「幸せは家族の共生の中に」

参加者 93名

中央支部研修会と合同開催とした。

(9) 福祉・ボランティア団体助成事業

福祉団体、ボランティア団体の活動を援助するため、20団体に総額91万円を助成し活動の助長を図った。

(10) 学童生徒のボランティア活動普及事業

本事業は、学童生徒の社会福祉への理解と関心を深め、ボランティア精神を養うことを目的として、市内全校(小学校11校、中学校6校、高等学校2校)に対し、生徒数20人以上の学校は年間5万円、20人未満の学校は年間3万円を助成し活動の助長を図った。

(11) 士別市ボランティアセンターの運営

本市のボランティア活動を推進するため、18名の運営委員のもと各種ボランティアスクール、ワークキャンプ、住民福祉活動を進めるつどい等の企画運営や、ボランティアセンターだよりの発行等に取り組んだ。

○運営委員会 委員18名 委員会12回(第2月曜日)開催

○個人登録ボランティア 63名(平成23年3月31日現在)

○ボランティアセンターだよりの発行 3回

○社協だより掲示板への掲載 6回

○ボランティア指定校担当者会議の開催 2回

○ボランティア団体研修会の開催

11月14日(日) 災害ボランティア活動研修会と同時開催とし、各ボランティア団体に呼びかけた。

○自主研修会の実施 3月25日(金)ボランティアセンターの運営について

○土曜ボランティア学習塾の開催

(ボランティア体験学習や情報交換を継続的に実施)

塾登録者 34名(高校生34名)

塾開催日 毎月第2土曜日(12回開催)塾生延べ150名参加

開催内容 ふれあい広場(学童生徒コーナー)企画運営

アダプテッドスポーツ体験、障がい者との交流等

○社会貢献活動への協力

「ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届けよう」、「空き缶のリングプルを集めて車椅子を贈ろう」という運動が市民に定着しつつあり、特にエコキャップ（ペットボトルのキャップ）に関しては、本年度は549の団体、個人から寄せられ、平成20年4月からの送付累計は1,511,256個（23年3月28日現在）で、ワクチン1,889.1人分になった。

(12) 収集ボランティア活動

市民から寄せられた使用済み切手、プリペイトカードを収集ボランティアサークルひまわりが整理し各団体に送っており、本年度の実績は下記のとおりである。

使用済み切手	210件	150,185枚	誕生日ありがとう運動本部
使用済みカード	83件	2,062枚	ジョイセフ（家族計画国際協力財団）

(13) 声の図書活動

○声の図書貸出事業

本事業は、小説、市の広報誌等を、士別声の図書会の朗読ボランティアが録音し、貸し出すものであり、出来上がった録音テープは現在1,636編10,983本となり、本年度の貸し出しは延42件162編1,339本であった。

・利用者 視力障がい者他 4名

4 在宅福祉サービス活動

(1) 小地域ネットワーク活動推進事業

在宅福祉活動がより一層地域に定着していくことを願って平成2年度から単位自治会を対象とした「在宅福祉サービス実践地区指定事業」を行ってきたが、平成14年度より「小地域ネットワーク活動推進事業」として改め、各自治会とタイアップした地域福祉の推進をめざし、本年度は20自治会に対し、1自治会3万円の助成を行った。

5 互助共励活動

(1) 無縁仏供養

日程 8月20日

会場 しべつ霊園「無縁の碑」

無縁者の霊を慰めるため、昭和60年士別市が建立した「無縁の碑」において、市関係者の参列のもと47柱の供養をした。

(2) 歳末たすけあい募金運動（22年12月 1日～30日）

本募金運動は、各報道機関をはじめ多くの市民の協力のもと、士別市共同募金委員会と共催で実施しており、本年度は45件1,438,157円の浄財が寄せられたところであるが、特に、催し物による募金活動にご貢献いただいた。

なお、毎年恒例となっている、ボランティアサークルむぎの会主催による「歳末チャリティーふれあい演芸会」益金491,580円と、しべつふれあいの会主催「歳末チャリティーカラオケ選手権大会」益金340,366円の募金合計は、831,946円となり実績の約58%を占めている。

(3) 「ふれあい募金箱」運動

昭和58年より、歳末たすけあい募金運動の通年化と市民の善意の助長を図るため、しべつふれあいの会の協力のもと「ふれあい募金箱」を設置しており、その総額が77,911円となり全額趣旨に添って「歳末たすけあい募金」として寄贈した。

募金箱設置事業所 市内36ヶ所

(4) 歳末たすけあい見舞事業（22年12月）

民生委員・市保健福祉部の協力により対象者を調査し、歳末見舞金品を配布した。

対象者 235名 見舞金品総額 1,404,000円

(5) ふれあい広場 2010 IN しべつ PART27

日 程 7月3日（土）～4日（日）

会 場 士別市総合体育館

テ ー マ 「で愛 ふれ愛 かたり愛」～あふれる笑顔 みんなが主役～

実施主体 福祉・ボランティア団体・各学校並びに市民有志で構成された、190名の「ふれあい広場 2010INしべつPART27実行委員会」が、企画から当日の運営にあたった。

内 容

- ・語らいコーナー…語らいサロン、血圧測定、健康相談（市立病院医師派遣）
- ・体験の広場…点字教室、盲導犬体験・講話、収集ボランティア活動体験、障がい者スポーツ交流（車イスラグビー等）等
- ・ステージ企画…ふれあいコンサート 等
- ・ふれあいの店…障がい者関係作品展示即売、バザー
- ・ボランティア障がい者福祉展
…ボランティアコーナー、特別支援教育作品展
- ・学童生徒ボランティア活動展
…各学校のボランティア活動時のパネル写真展・学童生徒企画コーナー（駄菓子屋、バルーンアート等）

・福祉標語

応募点数 221名 244点

最優秀作品 「思いやり あふれる街に 咲く笑顔」

・ふれあいの夕べ…雨天中止

会券販売数 641枚（飲み物、つまみセットと交換）

会議 実行委員会2回含め 27回開催

入場者 2日間 約 3,200名

協力者 2日間 526名（実行委員を除く）

ガイドヘルプ活動

ガイドヘルプ委員会を設け、自力で移動の困難な方に対してのガイドヘルプ活動を行い、2日間で12名が参加してくれた。

身障者用車両運転装置無料点検実施（5台）

車いす無料クリーニング実施（10台）

(6)生活福祉資金貸付事務

低所得者や高齢者、障がい者のいる世帯等の生活自立を支援するため北海道社会福祉協議会が主体となり、市町村社協が受付窓口となっている事業で、本年度は生活支援費、教育支援資金についての相談が18件あった。

決定…3件（ 緊急小口資金 2件
特例緊急小口資金 1件（東日本大震災）

(7)特別生活資金（冬期生活資金）貸付事務（11月1日～3月31日）

福祉年金等を受給する高齢者、障がい者及び特定疾患世帯に対し、燃料費など冬期の生活を確保する生活資金を貸付する事業で、北海道社会福祉協議会が主体となり市町村社協が受付窓口となっており、本年度は1件の相談があり決定している。

(8)士別市心配ごと相談所運営

近年、市民の悩みごとや心配ごと等、相談内容の多様化が目立っており、適切な助言社会資源の紹介活用等を行った。

相談所

常設相談所…社協事務局内に置き、相談員が随時相談を受けている。

地域相談所…58名の相談員（民生委員）宅とし随時相談を受けている。

相談件数 年間219件

処理状況（重複対応有り）

解決…56件・再来…54件・民生委員…36件・他機関…68件・その他…28件

(9)老人安全杖贈呈事業

おおむね70歳以上の高齢者や障がい者に対し、申し出により安全杖を無料で贈呈しているが、本年度は、219本の利用があった。

6 朝日地域福祉圏事業

(1) ふれあい昼食会

町内の70歳以上の高齢者を対象に昼食会を月1回開催し、ボランティアを含め延べ670名の参加があった。

(2) 第42回福祉運動会

日 程 10月15日(金)

会 場 トレーニングセンター

参加者 166名 (65歳以上の住民 126名、ボランティア 40名)

(3) ボランティア支援事業

○よって館運営支援

○知恵の蔵運営委員会支援

○広報紙「ぼらんていあネットワーク」を年7回発行した。

(4) 助成事業

心身障がい児の療育施設通所に対し交通費の一部を助成した。

- ・士別市こども通園センターのぞみ園通園者6世帯9人(110回)
- ・旭川市療育施設通園者1世帯1人(12回)
- ・名寄市立総合病院リハビリ通院者1世帯1人(6回)

7 士別市総合福祉センター指定管理運営事業 [別記1]

8 士別市多世代スポーツ交流館指定管理運営事業 [別記2]

9 サポートセンターしべつ受託事業 [別記3]

10 士別市施設入浴サービス受託事業 [別記4]

11 士別市移送サービス受託事業 [別記5]

12 士別市在宅介護支援センター運営受託事業 [別記6]

13 福祉パトロール受託事業 [別記7]

14 士別市いきいきデイサービス受託事業 [別記8]

15 介護保険制度に係わる事業者指定

(1) 居宅支援事業所(ケアプラン作成機関)

士別市社協居宅介護支援事業所

平成12年4月1日(指定)

[別記9]

(2) 居宅サービス事業所（サービス提供機関）

士別市社協ヘルパーステーション

平成12年4月1日（指定）

[別記10]

士別市社協訪問入浴事業所

平成12年4月1日（指定）

[別記11]

16 障害者自立支援法に係わる事業者指定

(1) 居宅支援事業所（身体・知的・児童・精神）

士別市社協ヘルパーステーション

平成18年4月1日（指定）

[別記12]

17 介護保険関係研修会への参加

- ・ 第2回上川北部PDNセミナー (22年4月24日 士別市8名)
- ・ 認知症サポーター養成研修会 (22年5月28日 士別市31名)
- ・ 北海道主任介護支援専門員フォローアップ研修 (22年8月28日～29日 札幌市1名)
- ・ ホームヘルプサービス協議会スキルアップ研修 (22年10月9日 旭川市3名)
- ・ 介護支援専門員実務従事者基礎研修 (22年10月26日～29日 旭川市1名)
- ・ 認知症の理解と家族支援スキルアップ研修 (22年12月11日 札幌市1名)
- ・ 認定調査員現任研修 (22年12月13日 士別市7名)
- ・ AED講習会 (23年2月26日 士別市37名)

18 平成22年度 強化事業

(1) 支部活動支援

地域的な活動の推進を図るため、支部活動費を増額し内容の充実を図った。

(2) 日常生活自立支援事業の推進

判断能力が低下されている方々の在宅生活を支えるため、日常的な金銭管理等のお手伝いや福祉サービス等を利用するための情報提供など、利用者が安心して自立した地域生活を送れるようサービスを提供した。

(3) 社協事業出前講座の実施

地域での福祉活動の推進、福祉のまちづくりのため、また、社協活動を知ってもらうこと等を目的に職員による出前講座を行った。

ボランティア、介護、高齢者福祉等の内容で4回実施した。

19 その他

社協監事による監査	4回	8月24日・11月24日・2月28日・5月17日
社協正副会長会議	3回	5月18日・2月16日・3月2日
社協理事会	2回	5月24日・3月11日
社協評議員会	2回	5月31日・3月23日
各種会合	25回	